

国際原子力事象評価尺度 (INES) International Nuclear Event Scale

[簡単に]

原子力事故・トラブルの深刻度を表す国際的な評価尺度

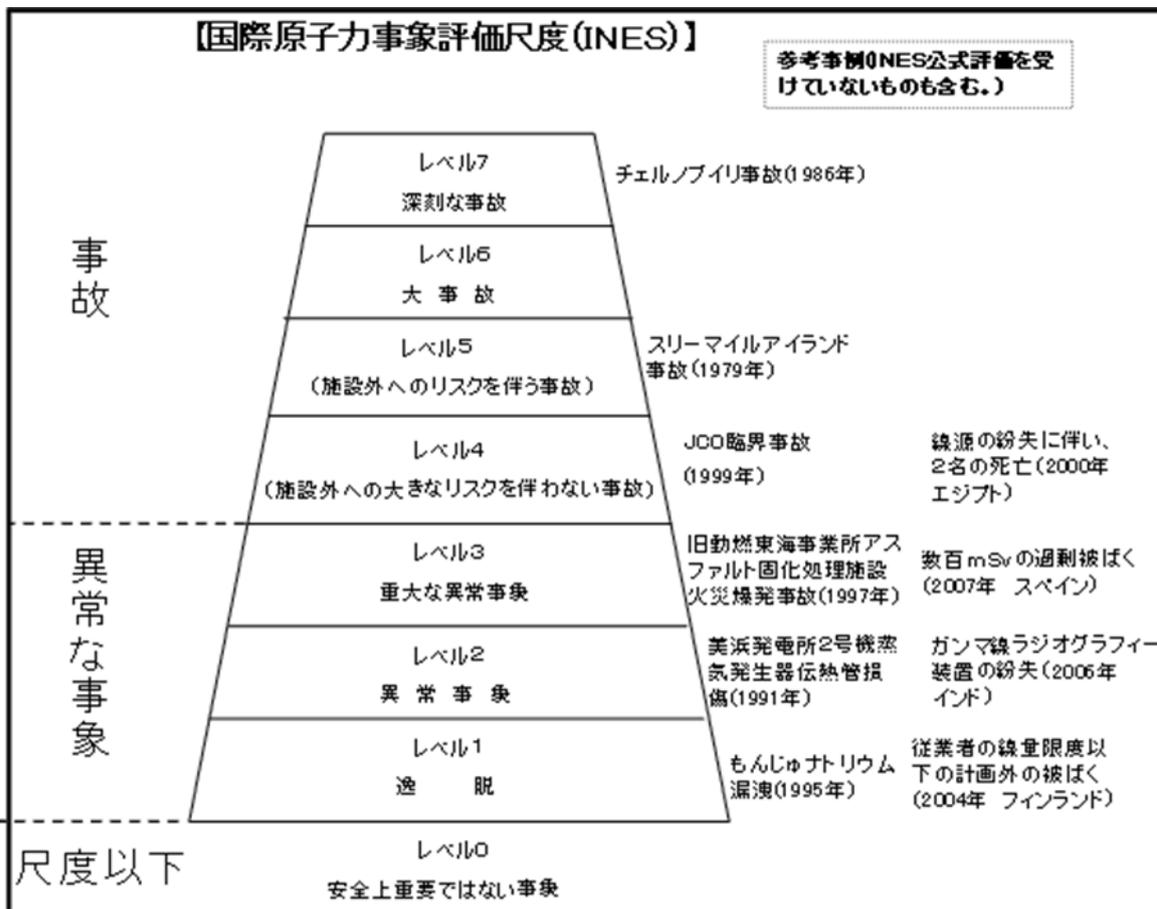
[詳しく]

原子力事故・トラブルの程度は、一般の人にはわかりにくいので、それをわかりやすく示すために設けられた尺度です。国際原子力機関 (IAEA) と経済協力開発機構・原子力機関 (OECD/NEA) の協力で策定されました。1992 年に各国での採用が勧告され、日本でも採用されています。この評価尺度は、放射性物質の発電所外への影響、放射性物質の発電所内への影響、発電所の安全確保機能の劣化 (深層防護の劣化) の 3 つの観点を基準とし、レベル 0 から 7 までに分けられています。

[角度を変えて]

- ・福島第一原子力発電所の事故はレベル 7 と評価されていますが、これは暫定評価です。最終的には原因究明が行われ再発防止対策が確定した後、専門の委員会による検討を経て正式に評価が行われます。
- ・レベル 7 に上がったのは、各地のモニタリングポストのデータから、放出された放射性物質がヨウ素 131 換算で数万テラ (1 テラ=1 兆) ベクレル以上と評価されたためです。ヨウ素 131 換算で数万テラベクレル以上の放射性物質の放出のとき、レベル 7 となります。
- ・福島第一原子力発電所事故で外部に放出された放射性物質は、チェルノブイリ事故で放出された量の 1/10 程度と言われています。しかし、福島での事故で海の方に流れた放射性物質は、海にモニタリングポストがないため、正確に評価されていませんでした。海外で観測された値などから海の方に行った放射性物質を評価し、福島での事故で放出された放射性物質の量を見積もると、チェルノブイリ事故の 1/10 よりも増える可能性があります。

[図解のポイント]



【出典】 文科省 HP

http://www.mext.go.jp/a_menu/ankenkakuho/ines/kokusaihyoukasyakudo.htm

[関連語]

国際原子力機関 (IAEA) → 原子力の平和利用を促進するとともに、原子力の軍事的利用への転用防止を目的とする。

経済協力開発機構・原子力機関 (OECD/NEA) → 加盟国政府間の協力による、安全かつ環境的にも受け入れられる経済的なエネルギーとしての原子力開発促進を目的とする。